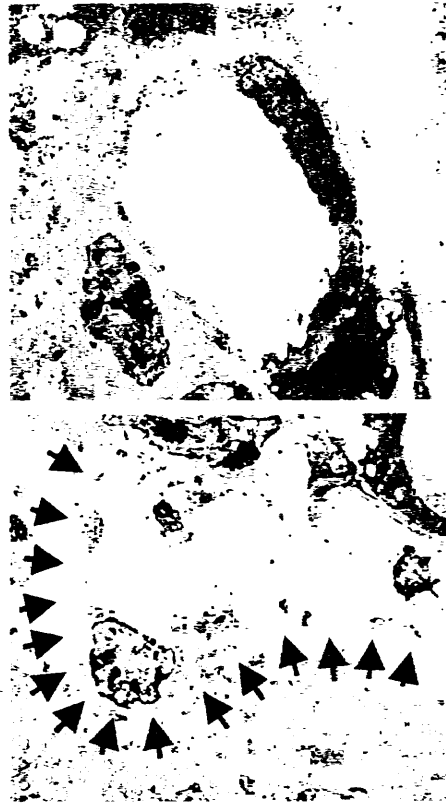


血管 確実に再生へ

構造を安定化するタンパク質

信大大学院教授ら解明

血管の細胞の受容体にくっついているタンパク質「RAMP2」が、血管の構造を安定化させる上で重要な働きをしていることを、信大大学院医学系研究科（松本市）の新藤隆行教授（循環器病学・発生再生医学）らが突き止めた。米医学誌「ジャーナル・オブ・クリニカル・インベスティゲーション（電子版）」に二十一日、発表した。



マウスの卵黄動脈の電子顕微鏡写真。通常のマウス①は血管構造が保たれているが、RAMP2の遺伝子を壊したマウス②では血管内皮細胞がはがれている（矢印の部分）。新藤隆行教授提供

RAMP2の働きを人為的に高めれば、狭心症や閉塞（へいそく）性動脈硬化症に行われている血管再生療法の効果を高めた。脳浮腫など難治性のむくみの治療法開発にもつながりそうだ。

RAMPは、細胞膜上にある受容体の脇にくっついて、働きを調節するタンパク質。特に、血管を作ったり構造を安定化させる物質「アドレノメデュリン（AM）」の受

容体にくっついていることが分かっているが、三種類あるRAMPの詳しい働きは不明だった。

新藤教授らは三種類あるうちRAMP2に着目し、RAMP2の遺伝子を壊して働かないようにした遺伝子改変マウスをつくった。するとRAMP2がないためAMの信号が細胞に伝わらず、血管がもろくなつて浮腫や出血を起こし死んでしまつたことが判明。RAMP2が血管構造を

安定化させる上で必要不可欠の物質」と結論づけた。逆にRAMP2の遺伝子を組み込んで人為的に働きを高めたところ、血管のような管が多く形成された上、構造を安定させる遺伝子の働きが高まったことと新藤教授はみている。

現在、狭心症や閉塞性動脈硬化症などに対し、骨髄細胞や特殊なタンパク質を注入して血管を再生する血管再生療法が、信大病院などで行われている。また、血管の構造を安定化すれば水分が漏れ出るのを防げることから、「脳浮腫などの難治性のむくみの治療にも応用できると話している。

男児は「大翔」 女兒は「葵」

今年の赤ちゃん名前ランキング

2007年に生まれた赤ちゃんの名前ベストテン	
男の子	女の子
1 大翔 (ひろと、はると、やまと)	1 葵 (あおい)
2 蓮 (れん)	2 さくら
3 大輝 (たいき、たいき、ひろき)	3 優奈 (ゆうな、ゆな)
4 翔太 (しょうた)	4 結衣 (ゆい)
5 悠斗 (ゆうと、はると)	5 陽菜 (ひな、はるな)
6 陸 (りく)	6 七海 (ななみ)
7 優太 (ゆうた)	7 美咲 (みさき)
8 優斗 (ゆうと、ひろと、まさと)	8 美優 (みゆ、みゆう)
9 健太 (けんた)	9 ひなた
10 悠希 (ゆうき、はるき)	10 美羽 (みう、みゆう、みゆ)
10 翔 (しょう、かける、つばさ)	10 優衣 (ゆい)

男児では「大翔」が昨年の二位から二年ぶり二回目の首位に、「空高くかめぐる」というイメージがあり、将来の活躍を期待する親の願いが込められているのは、「明治安田生命」としている。女兒では「葵（あおい）」ちゃんがトップ。明治安田生命保険は二十日、こし生まれた赤ちゃんに付けられた名前のランキングを発表した。

節電 杉の木146本分

8月県内の26世帯が挑戦

記録的猛暑だった今年八月の一月間、県内の26世帯が節電に挑戦した。

市民」と県地球温暖化防止活動推進センターが共催した。各世帯は、電化製品の電源を「まめに切る、コンセントを抜く、エアコンの節電分を、杉の木146本の吸収量に置き換える

市役所が「市民代表発表」の高木直樹・信大工学部准教授によると、全体の節電分を、杉の木146本の吸収量に置き換える計算とい

善光寺・松本城と妻籠宿

とも「再挑戦」となる。一帯について、独自の空間が今も生き残っている